

せりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福社会 特別養護老人ホームせりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成30年4月 第206号 年間購読料1,000円 (1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

平成30年度事業計画書 社会福祉法人はりま福社会・せりょう園

基本理念

人は、老いて要介護になり認知症にもなって最期を迎える吾身を、集団の中で仲間に委ねて『介護』を任せ、社会を構成して生きる為の『思想や人間性・社会性』を伝えて、人生を締め括ります。「自然の摂理」に添った老いの必然として訪れる『吾身の変化と死』を後輩達に委ねる姿は、人生におけるバトンタッチの助走であり、ペースを合わせて後輩達が寄添い伴走する営みが『介護』です。『介護』は、『限りある命』と命を繋いで、遺伝子では伝わらない『社会と文化』を引継ぎ、歴史を続けてきた、『優れて人間的で崇高な営み』です。

『超少子』の今こそ、老いに伴う変化に応じて『しなやかに、したたかに、たくましく』生きる認知症高齢者の暮らしから、多様で柔軟な社会生活能力を若い親や幼い子供達に引継ぐ為の『社会的な仕組み』が重要です。その仕組みとして『公的介護保険制度』が創られたのだと信じます。

老いて要介護や認知症になる老人も、ダウン症で生れる子供達も共に、『多様で柔軟な持続可能な社会』を象徴する存在であり、迷惑でも予防の対象でもなく、社会全体で支えるべき『有用・有益な存在』です。

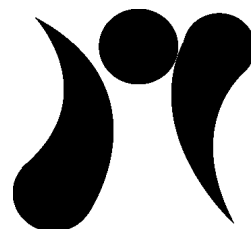
社会福祉法人の公益性の発露として、『要介護老人の存在価値』と『介護の価値と魅力』を顕かにし、要介護や認知症の人が持つ多様で柔軟な社会性を『子供達に引継ぐ手立て』を創り出す事業を、地域の中で展開します。

(1) 平成30年度新規事業の計画

- ① 空き家を活用した高齢者・障害者の『グループハウス』を開設します。

縁あって賃借できる空き家に耐震補強・防火対策を施し、5部屋の共同住宅2軒を用意します。施設より徒歩数分の場所にあり、小規模多機能居宅介護や、定期巡回・随時対応型訪問介護看護を提供して、入居者の自立した生活を最期まで支えます。

(次ページに続く)



(前ページの続き)

- ② 事業所内保育所を、「自愛の家さくら」1階で開設します。
0歳児・1～2歳児、15人定員の事業所内保育所を今年度内に開設し、仕事と子育てを両立できる介護事業所を実現します。
- ③ 学童保育を、リバティかがわ2階ホールで開始します。
今年7～8月の夏休み期間中の学童保育をまず開始し、順次体制を整え、日常的に開設できる方向で準備します。要介護や認知症の高齢者と触れ合う時間は、児童にとって貴重な生活経験になると確信します。
- ④ 障害者支援の「就労・生産・住まい」等の事業を計画・実施します。
障害者支援事業の「お弁当屋」を喫茶ラヴィックの隣接地に誘致して、共に事業として共存できる途を探り、その後法人独自の障害者支援事業を展開する途を目指します。
- ⑤ 「陶芸・造形」教室の活動を、地域の人、認知症の人、障害児・者が共に自らの感性と感覚と創造力を発揮して生きる「共生社会」を目指す為の一步と位置付け拡大します。
- ⑥ 生活保護受給者に住居を提供する途を探ります。
ケアハウス・サ高住・グループハウス等への入居に際しての低所得層への経済的配慮を、社会福祉法人の公益事業として取り組みます。
- ⑦ 加古川市社協を事務局とする社会福祉法人連絡協議会に参画し、他法人と連携・協力して地域社会への貢献・公益事業に取り組みます。
- ⑧ 地域の人やご家族を、有償・無償ボランティアとして介護現場に迎え、「老いの本質」と「介護の価値と役割」に気付いて頂く途を探ります。

せいりょう園 渋谷 哲

※「平成30年度事業計画書」の続きは、ホームページをご参照下さい。

<http://www.seiryoen.or.jp/>

3月31日 認知症カフェ



今回の認知症カフェは入居者の方にカフェ参加者のコーヒー・紅茶を入れて頂こうと準備をしました。職員は最初、多くの方がコーヒーを入れることは難しいのではないかと思います、事前にできそうな方を何人か想定していました。しかし当日、ある事業所がカフェの集合時間を間違えてしまい、45分待たないといけなくなったので、一人ひとりにコーヒーを入れてもらおうということになりました。

ある程度は声掛けをさせて頂きましたが、ほとんどの方が手際よく入れておられました。一番に入れた方は「こんな私だけ飲まれへんわ。男の人にあげとこ」と渡し、ある方は複数入れ「これみんなの分や」と言われていました。「自分で作ったからおいしいわ」「自分でしたから砂糖多くてもいいやろ」「こんな久し振りやね。ようできるんやろか」と普段では聞かれない言葉を聞くことが出来ました。そして私もその時間がとっても楽しかったです。日頃から“出来ることはやってもらう”、“力を奪わない”と私自身が思っている以上に入居者が出来ることというのは多いのかもしれないと気が付きました。その出来ることが何かということに気が付けるようにしたいです。

(グループホーム主任 別府 克彦)





私はせいりょう園で働く前、小規模のデイサービスで働いていました。そこでレクリエーションの担当をしていました。時間を見つけては図書館に通い、インターネットで調べ利用者の方の大事な時間を楽しんで喜んでもらおうと、毎日違うレクリエーションをしていました。手先を使う。身体を動かす。頭を使う。利用者の方に平坦になりがちな日常生活の中で、非日常な時間をもってもらうことに一生懸命努力しました。時には、夜中まで次の日のレクリエーションの準備をしていました。ただ一生懸命になりすぎて、だんだんと疲れがでてきました。最初は利用者の方と一緒にレクリエーションをすることが楽しく笑顔でできていたのに、半年を過ぎる頃には、やらないといけない、どう時間をつぶしてもらおうか、そればかり考えるようになり、利用者の方のことを考えられなくなってきました。自分本位の考え方になり、利用者の方の立場となって考えられなくなりました。今思えばその頃は笑顔もなくなっていたように思います。そのような考えで仕事が続くはずもなく、1年ほどで退職をしてしまいました。その後、縁がありせいりょう園で働くことになりました。

ここで働き始めてから気づいたことがたくさんありました。利用者の方に対しての丁寧な声かけ。利用者の方の目線になって、日々の関わりやコミュニケーションのとり方。その方が望んでいることを汲み取って職員同士で連携し、支援することです。特に印象に残っているのは、利用者の方に対し、ケア後に職員が「ありがとうございます」と言っていたことです。職員同士でも「ありがとうございます」と言葉を掛け合い、連携をとっていることに感動しました。今までの職場では家族にさえこの言葉を掛けてもらうことなく、また私も伝えることなくやってきたので、私にはものすごく新鮮でうれしい言葉でした。「ありがとうございます」の言葉は不思議な力をもっており、人を幸せにしてくれる、笑顔になれる言葉だと思います。とても簡単な言葉ですが、伝えるのが難しい言葉です。「ありがとうございます」職員同士利用者の方にも、言葉を掛け合い笑顔で楽しく業務をこなし、その笑顔を見てもらうことにより、利用者の方によりよい支援ができると思います。

介護という仕事をさせてもらい「ありがとうございます」日々その感謝を忘れずにこれからも笑顔で頑張っていけたらと思います。

池田 優夏

もうすぐせいりょう園で働き始めて2年がたちます。私は資格もなく、介護の経験もないのですが、もともと人と関わるのが好きなので、働くなら人の役にたつ仕事がしたいと思い、介護職を選びました。

初めはデイサービスで一カ月間研修をさせてもらい、そのあと地域密着型特養へと移りました。特養はデイサービスとは少し違い、麻痺があって自分の思い通りに身体が動かせない方や一日のほとんどの時間をベッドで過ごす方、言葉が話せない方などが大勢おられ、少し戸惑った時期もありました。特にトイレ介助や入浴介助が難しく、体力に自信がない自分に出来るのだろうかと不安になることもありました。先輩職員に丁寧に教えて頂き、少しずつ出来るようになってきました。しかし、毎日業務に追われる中で、一人一人と十分な関わりを持つことや、介護拒否のある方などの対応は今でも難しく思うことがあり、お年寄りの方にとって気持ちの良い対応が出来るかということを見ると、まだまだ私は出来ていないことの方が多いかも知れません。

せいりょう園で働き始め、何人もの方が亡くなっていき一人一人がその人らしく最期まで生きる姿を見てきました。入居者の方が亡くなった時、「ここで最期を過ごして幸せだったのかな」「あの時の自分の対応はあれで良かったのかな」といつも思います。正解はないかも知れませんが、お年寄りの方にとっては、せいりょう園が人生の最期を過ごす場所だということ、その中で「私は関わらせてもらっているんだ。」ということのを忘れず、これからも日々色々なことを学んでいきたいです。



浄土真宗本願寺派 金照寺衆徒 宰務 清子 師

暖かい日が続き、桜の花びらが風に乗り、舞っている所もあります。せりりょう園でも皆様が桜の風情を楽しもうと散歩されています。今日、仏教講話に参加されている方々も桜の木の下を通り、花びらを身体につけて会場に入ってこられました。お話して下さるのは、加古川町の金照寺の衆徒 宰務清子師です。当初予定のご住職が体調を崩されて急遽、駆けつけて下さいました。

「今日来るまでに、下の子どもが3歳になり、保育園に入るので袋を縫っておりました。絵本バック、靴入れ袋、お着替えカバン等、やっと紐を付けてとんできました。春というのはそういう季節です。皆さんお花見しましたか？私は慌てて来たので、桜も見ていません。帰りに見たいと思います。花祭りの季節ですね。金照寺でも『子ども会』があって、子どもが中心になって花祭りをします。『子ども会』は毎月1回、土曜日にあります。お勤めをして、お話しを聞いて遊びます。ホットケーキを作ったり、新聞紙でお家を作ったりします。夏休みは2日間に亘って行います。花祭りはお釈迦様の誕生日ですから楽しいです。仏教はご法事やお葬式等、悲しみ事で出会う事が多いですね。『仏教なんか死んでからのもの』と思う人も多いと思います。しかし、仏様の教えは生きている私達に道を示し、生きる力を与えて下さいます。子ども達にお寺を楽しい所と思ってもらい、仏教と出逢ってもらいたいと『子ども会』をしています。」

ここから、本願寺派の布教使の研修会での友人との会話をお話されました。友人は昼間のがら空きの電車に乗り、電車の端の方の座席で仏教の本を読んでいました。そこへ反対側の端に女子高生二人が乗って来て、賑やかに喋っていたそうです。友人は何か視線を感じて、本を読みながら耳をすませていました。女子高生は「あの人が見て」「あの人の読んでいる本見て」「仏教って書いてある、あの人が悩んでるんやわ」と言っていました。友人はそれを聞いて、「仏教の本を読んでいるから悩んでいるなんて、失礼だ。」と腹が立ったそうです。宰務様もその話を聞いて、同じ思いでした。友人と二人でそんな話をしていると、聞きつけた講師の先生が近寄って来られました。事の顛末を話しますと、先生は「あなた達、今まで何を聞いてきたのですか。仏教は『人生は苦』と教えてくれます。身を煩わせ心を悩ませるのが煩惱です。その人間が、仏教の本に尋ねるのは健全な事です。」と諭されたそうです。

「先生のお言葉に『悩んでいると思われたくない』と思う我々の心があきらかになりました。褒められるのは嬉しいですが、弱いところは見せたくないのです。人と比べて優劣をつけ、他より優れていたい、苦を知られたくないと、身を固くしながら生きているのが人間の姿なのだなど知らされます。

インドの言葉で著された経典は、中国において様々な次代に、その時々の人によって、その時や場所の言葉で翻訳されました。『仏教無量寿経』は、時代や翻訳した人により異なる、12の訳があります。同じ親から生まれた12人兄弟のようなイメージです。現在5つは存在しますが、7つは散逸し拝読する事ができません。5つ現存するうちの1つの『仏説無量寿経』(兄)には、『阿弥陀仏の光明に触れたものは心身柔軟で、迷いの境涯を超える』と述べられています。その300年後に翻訳されたのが『無量寿如来会』(弟)です。『心身柔軟』の箇所が『心身安楽』となっています。私が見つけたのではありません。親鸞聖人が『教行信証』という書物に並べ示して下さいました。身も心も柔らかくあるという事は、安心であり幸せな事であると示されているのです。

私達人間は苦を生きているからこそ、苦を認めたくないのかも知れません。

苦を生きるその私達こそ大事だと思って下さっているのが、阿弥陀様です。阿弥陀様は全ての存在が仏になって下さい。そうでないと私は仏になりません、とおっしゃいます。仏とは他と自分が区別なく見ていく事が出来る、それが完璧に出来るのが仏です。仏とはほど遠い私が、仏に願われ仏と共に生かさせていただくのです。」と心をこめて話して下さいました。

お話が終わりますと、施設長が2階の会場のブラインドを開けて、窓の下に広がる満開の6本の桜の木を事務様に見て頂きました。この場でのお花見に感動されておられました。

今日は急な事でしたが、快く来てお話して頂き、ありがとうございました。

(介護支援専門員：岡村 照代)

ユニットでの1年を振り返って

ユニット型特養 伊藤 勇介
(介護福祉士)

私が地域密着型特養からユニット型特養へ異動をして、約1年が過ぎました。はじめは「ユニットでの介護というものはどういう事をするのだろう、自分にできるだろうか」と異動に不安がありました。しかし、いざ現場に入って仕事してみるとそれほど大きく内容が変わることはありませんでした。どこで仕事をしようとも私達がする事は、「生活の中でその人は何が出来るのか、何ができないのかを見極め、その人が生活でできない事のお手伝いをする」という事に違いはありませんでした。地域密着型との大きな違いは居室の設備ぐらいでしょうか。ユニットは完全な個室で、居室の中にトイレや洗面台があります。どちらも居室に入らせて頂く事には変わりはありませんが、ユニットは完全な個室なので「お邪魔します。」といった気持ちが大きい感じがします。その様に感じてしまうのは、今まで働いてきた6年の間に「居室＝本人の住まい」という感覚が希薄になってしまっていて、居室にノックや声掛けをせずに入るという事が当たり前になってしまっていたのだなと感じました。ユニットに異動になり、この感覚は駄目だと見直すきっかけになりました。

また、『生活』を感じる事も多くなりました。「パン屋に行きたい」と希望があれば近くのパン屋へ職員と一緒に行く方もいます。そこでコーヒーを飲まれたりもします。また別の方は近くのコンビニへ買い物に行ったり、喫茶でモーニングを食べたりとその人らしい生活をされています。コンビニへ行かれている方は車いすなので、転倒や事故のリスクはあります。実際にコンビニへ行かれた方が道中で車いすから落ちてしまった時、通りかかった地域の方に助けてもらったという事もありました。それでも最初から最後まで付き添ったりはせず、他の部署に見守りの協力を頼んだり、連絡を取り合い、帰りが遅い時は様子を見に行きます。「行ってらっしゃい」と見送り、「お帰りなさい」と迎える時は、本当の家の様に感じました。道中で地域の方に助けて頂いている事に地域との繋がりも感じました。

一人ひとりに生活があり、生活の主役は入居者の方であり、介護職は主役をサポートする役割で決して主役ではない、ごく当たり前の事を改めて考える様になり、これまでは介護を押し付けてしまっていたのではないかと思います。一人ひとりの生活を見ていく中で「今、この人がしたい事はなんだろう」「その事が出来るようにするには自分ができる事はなんだろう」「何をどこまで手伝えばいいのだろう」と考えるようになりました。主役をサポートし、一人ひとりが輝いて生きていける場所になる様に、これからも日々学び考えながら、入居者の方の生活を支えていける様に努めていきたいと思えます。



Iさんの思い出

ユニット型特養 嶋田 祐子
(介護福祉士)

私がせいりょう園で勤め始めて、早いもので15年目を迎えようとしています。グループホームで4年勤めた後、ユニット型特養を立ち上げる為の勉強として地域密着型特養で2か月の経験を積む事になり、その際Iさんとの出逢いがありました。Iさんも地域密着型特養からユニット型特養への入所が決まっており、ユニット型特養開設当初からの入居者のおひとりでした。

当時のユニットは各丁目毎に職員を固定しており、私はIさんのいらっしゃる3丁目の担当でした。そのため四季の行事や面会を通してIさんの日々の様子や変化などをお伝えする事により、御家族様との関わりも多く持つ事が出来、ご家族様の思いも感じ取る事が出来たように思います。

ご家族様の定期的な面会時には園内にある喫茶ラヴィックで過ごされ、ユニットに戻られた時の表情はとても嬉しそうにされていました。御家族様の帰宅時は玄関の外まで見送られ、その姿からご自宅への思いを感じ取れる事もありましたが、ご家族様と共に帰宅したいと言われる事はありませんでした。それは、ユニットを生活の場として感じてもらえていたのかもしれない。

Iさんは春夏秋冬お元気な頃、地域密着型特養へ向かわれる事が頻繁にありました。ユニットでの生活が特養で過ごされた日々より長くなっても、その傾向は変わりませんでした。何がIさんの足を特養に向かわせていたのかを考えると、賑やかな場所がお好きであり人と交わる事が好きだったIさんが、特養で行われる行事に、心惹かれ向かわれていたのではないかと思います。

また、入所当初は職員の手伝いも快くして下さっていました。洗濯物を干して下さったり、取り入れた洋服をたたんで下さったりしていました。いつの頃からかたたんでおられた服を重ね着されるようになり、私たちはIさんの変化をまた一つ感じる事となったものです。

ボランティアの方でIさんと親しい方がいらっしゃいました。その方が来られると、顔を見るなり挨拶をされ、御家族様に接するようにひと時もその方を離さない時間を過ごされていました。穏やかに会話が途切れる事なく過ごされるひとは、羨ましくなる程でした。Iさんにとってその方の何が魅力的な存在となっていたのか、私は今でも考えることがあります。職員は御家族様や友人とは違うのは当然であり、節度を持たなければいけないと思っています。しかし、Iさんがボランティアの方に心のよりどころを見つけられた事で、一介護職として利用者様に接する際の何か欠けているのではと、考えるきっかけを下さったように思いました。

必要として貰える介護職になっていけるよう、気付きの出来る介護職となれるよう、Iさんとの出会いを大切に、ユニット職員として努力して行こうと思います。



3月20日 和太鼓演奏

ボランティアの方による和太鼓の演奏がありました。入居者の方々は和太鼓の力強い音に聴き入っていました。演奏の最後には入居者の方も和太鼓を叩かせてもらい、バチを握りしめて力強く太鼓を叩く姿はとても楽しそうでした。



【介護について語ろう会のご案内】

介護について語ろう会は平成10年からスタートし、今年4月で240回になります。平成21年の記録を見ると、地域の方々・介護に携わる専門職・せいりょう園の利用者・ご家族に参加していただき、職員も入ってその時々介護のテーマについて意見交換を大切にしてきました。

現場からの発信として一番の強みは、認知症・障がいのある方々がたくましく、生き生きと生活しておられる場であることです。

今年度も現場の事例を通して、人生の最終章をどう過ごすか、参加者の皆様と真剣な話し合いの場となることを願ってご案内いたします。

- 日程：4月27日：白坂介明先生の絵画「子供の叫び」と電子ロック
5月25日：成年後見制度について
6月22日：りょうえんカフェ一番星（認知症カフェ）
7月27日：本人の自立支援と環境づくり
8月24日：看護職として認知症の生活・ターミナルについて
9月28日：胃ろうを選択するということ
10月26日：サービス付き高齢者向け住宅におけるターミナルケア・看取り
11月30日：自立支援とは
12月21日：感染症対策と食生活
1月25日：地域包括ケアシステム
2月22日：地域サポート型特養の役割
3月22日：家族・地域・ボランティアの役割

時間：14：00～15：00

場所：せいりょう園リバティかこがわ2階（加古川市野口町長砂95-2）

料金：無料（事前申込みは不要ですので、当日直接会場にお越し下さい。在宅で介護をされている方、特養の入所をお考えの方、介護に関心のある方など、皆様の参加をお待ちしています。）

※日程や演題は変更する場合がありますので、ホームページをご覧ください。

【子育てひろば“にこにこ” in せいりょう園】

日時：毎月第4月曜日（祝日は休み）10：00～11：30（※12月は17日）

場所：せいりょう園リバティかこがわ2階フィットネスルーム
（加古川市野口町長砂95-2）

内容：手遊び、絵本の読み聞かせ、季節の行事、子育て相談など

対象：就学前の子どもと保護者

定員：25組（先着順）

持ち物：お茶等

申込み：1週間前の月曜日9：00～電話又は窓口（東加古川子育てプラザ）で受付

問合せ：NPO法人子育てサポート☆きらりing Tel (079) 423-5517

（加古川市平岡町新在家1588-22）



【ケアマネジャー募集】

せいりょう園介護相談室（居宅介護支援事業所）でのケアプラン作成及び相談業務です。未経験の方も丁寧に指導します。

【ホームヘルパー募集】

未経験者の方は、ケアハウスやサービス付き高齢者向け住宅への訪問から始まりますので、安心してご応募下さい。登録ヘルパーも募集しています。

【栄養士募集】

献立作成や発注業務・栄養管理等です。時間や勤務日数は相談に応じます。

※給料や勤務形態等詳しくはお電話でお問い合わせ下さい。

せいりょう園 TEL (079) 421-7156

【せいりょう園空き情報 平成 30 年 4 月 13 日現在】

- サービス付き高齢者向け住宅「自愛の家さくら」：11 室
(19.1 m²：6 室、24.7 m²：3 室、25.8 m²：2 室、20.4 m²)
 - サービス付き高齢者向け住宅「リバティかこがわ」：6 室
(33 m²：3 室、35 m²：2 室、41 m² 1 室)
 - ケアハウス：空きなし (バス・トイレ・キッチン付 24 m²)
 - グループホーム：空きなし ●グループホームまどか：空きなし
- [問合せ先] せいりょう園 TEL(079)421-7156 / (079)424-3433



【キッズクラブ支援員・補助員募集（夏休み期間のみ）】

①支援員：保育士又は幼稚園・小学校教諭等の資格者、子育て支援員認定・放課後児童支援の資格者（年齢不問）

②補助員：年齢・資格不問

※時間・時給等詳しくはお電話でお問い合わせ下さい。勤務日数は相談に応じます。

せいりょう園 TEL (079) 421-7156

【せいりょう園キッズクラブ（夏休み）児童募集！】

日 時：加古川市内の小学校の夏休み 平日 8 時～17 時

利用料金：1 日 1,000 円（半日利用の場合は 500 円）

場 所：せいりょう園リバティかこがわ 2F（加古川市野口町長砂 95-2）

申込方法：別紙申込書をせいりょう園事務所にお持ち下さい（郵送可）

利用方法：予約制（定員 20 名）TEL (079) 421-7156

持 ち 物：弁当（1 日利用の場合）、水筒、勉強道具（宿題）等

活動内容：毎日 9：00～10：00（夏休みの宿題や自主学習）

ボランティアの方にご協力いただき、色々な活動を予定しています。



・月曜日 13：00～15：00（陶芸や造形）

・金曜日 10：00～12：00（習字や読み聞かせ）等